

# 学都屋台食談

第6回 キリンビール株式会社  
中部圏統括本部北陸支社長 小西 敏雄氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観：人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月6日から11月19日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で13年目を迎えた食談で、講師が語ったメッセージを紹介します。

## 4年間の学生生活の タイムマネジメントを

皆さんの学生生活は充実していますか。高校に比べて大学は自由な時間が増えるので、4年間のタイムマネジメントがとても大事です。勉強、サークル、アルバイトなど、何にどれだけ時間をかけるのかを考え、日々を過ごしてください。

私は学生時代、アルバイトにも力を入れましたが、勉強をおろそかにしてませんでした。ただ、社会に出てからは、もっと勉強しておけばよかったと感じています。それはなぜかという点、会社でマーケティングの業務に当たった時に、その知識が十分ではなかったからです。

そこで、ビジネススクールで学び直したのが33歳の時でした。20代の部下には、今のうちに知識をインプットした方がいいと勧めています。仕事をしていると悩みます。私も悩みました。その時には、蓄積した知識が役立つ、上司のアドバイスも後押ししてくれます。そして、目標となる人を見つけてください。その背中を追いかけることで、自分が向上します。

## 「楽しむ」いかに 人が集まってくる

私は入社して27年目です。これまで仕事は「お客さまのために楽しんでやろう」という気持ちで取り組んできました。その思いは、今も昔も変わりません。

このような仕事に対する姿勢を持つようになったきっかけは、1995(平成7)年に発生した阪神・淡路大震災です。当時、私は神戸支社に勤務し、自分自身も被災者でした。お客さまの中には亡くなられた方もいます。

ただ、いつまでも悲しみに暮れていては前に進めません。復興に向けて自分ができることを無我夢中で考えました。行き着いたのは「楽しむ」ことでした。被災者の方を励ますには、暗い顔は厳禁です。仕事を楽しむことで自分が笑顔になり、皆さんにも笑顔になってもらおうと思った



参加生  
前列左から及川大輔さん(金沢工業大学3年)、吉村啓汰さん(北陸大学2年)、後列左から岡村拓門さん(金沢大学2年)、江戸つぐみさん(金城大学3年)、水野健児さん(石川県立大学2年)

のです。

楽しむことは何事もプラスに働きます。仕事ができる人は、お客さまを楽しませるのも上手です。そして、気配りもできます。そういった人の周りには、自然に人が集まります。人生を楽しむことは人生を豊かにする第一歩です。

## アナログだから 思いが伝わることも

ところで、最近はSNSの利用が当たり前になり、デジタル化が急速に進んでいます。私たちの会社でも、地図データを使って飲食店への訪問計画を作成するなど、新たな営業手法を開発しています。

皆さんは社会に出ると、今までの何十倍の人に会おうでしょう。デジタル時代は、距離と時間に関係なく、人と人がつながることができます。簡単なだけに絆が弱いことも少なくありません。

相手に気持ちを届けたい時は、アナログな手法が心に響くこともあります。例えば、手紙を書いたり、付箋で感謝を添えたりすれば、直筆の文字から思いが伝わることでしょ。

これから皆さんは、自分の人生を歩んでいきます。その道にはさまざまな人の出会いが待っています。「出会いの数だけ人は成長する」という言葉の通り、無限の可能性をもたらす出会いを大切にしてください。



講師

キリンビール株式会社  
中部圏統括本部北陸支社長  
小西 敏雄氏

こにし・としお

1968年京都府京都市出身。京都産業大学経営学部卒業後、キリンビール株式会社に入社。首都圏統括本部、広域販売推進統括本部、キリンビールマーケティング株式会社フードビジネスサポートチームリーダーなどを経て、2018年10月から現職。



ストップ! 未成年者飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。あきびんはお取扱店へ。キリンビール株式会社

KIRIN

企画/榎アドマック 編集/榎都市環境マネジメント研究所